

第7回 立川市新校舎建設マスタープラン検討委員会

日時 : 平成29年1月30日(月) 18:00~20:00

場所 : けやき台小学校 視聴覚室

出席者 :

- 【検討委員会委員】 ■長澤委員長 ■富永副委員長 □菅原委員 ■小林委員 ■佐藤委員
■須崎委員 ■星野委員 ■大野委員 ■藤縄委員 (代理: 菊池)
■山田委員 ■堀江委員 ■栗原委員 (教育部長) ■白井委員
■吉岡委員 ■宮城委員 ■飯塚委員 ■梅津委員
- 【市職員】 ■小林課長 (施設課) □田村課長 (学務課) ■神崎課長 (子ども育成課)
■小瀬課長 (指導課) ■矢ノ口課長 (教育支援課)
- 【事務局】 ■庄司課長 (教育総務課) ■中島 (教育総務課)
- 【策定支援業者】(株)豊建築事務所 ■田中 ■奥澤 ■高柳 ■表 (以下敬称略)

開催に当たって

- ・配布資料の確認。

1 新校舎建設マスタープラン等に関する説明会について

- ・事務局より、1月27日・28日に保護者や地域の方などを対象に開催した説明会について下記のとおり結果報告した。
- ・両日の参加者は、ともに20名で、延べ40名の方の参加があった。
- ・説明会の参加者からは、新校舎に対して期待する意見があった一方、通学路の安全対策についてはさらに検討してほしいとの要望があった。

2 学ぶ楽しさ、教える喜びが実感できる学校づくりについて

- ・策定支援業者から説明を行った。

<主な意見>

【F委員】 1・2年生の教室に設けるパオ(小空間)について、どのような利用を
すると、この空間が役立つのか具体的に教えてほしい。

【策定支援業者】 検討委員会で視察した、川崎市立はるひ野小学校では、授業中に活用し
たり、休み時間の子どもの居場所や、授業中にクールダウンをさせる空間
にもなっており、様々な使い方がされている。

【副委員長】 現場の立場からも担任の先生が、クールダウンをする子を一旦、教室の

外へ出して対応している現状があり、その時間は担任の先生が教室にいないことになってしまっている。教室の中にパオという小空間があることは、担任の先生としてはとても助かる。また、狭い空間の中で、子どもたちがお互いに膝を寄せ合うことで、教育効果が高まる。狭い空間というのは、子どもたちにとって、安心できる場所にもなり、非常にいいなと思う。

【J委員】 柱の大きさが気にかかる。表に出ていると結構目立つので、どのぐらいの柱を考えているのか。はるひ野小学校の職員室の真ん中には1メートルぐらいの柱があった。柱の影で見えないところが出てくる。

【小林課長】 柱の大きさは、階数や、長さによって変わってくる。どのような、柱割りをしていくのがいいのかというのは、空間によっても変わってくると思うので、設計を進めていく中で考えていきたい。

【委員長】 将来的な空間のフレキシビリティ、可変性を保つためには、柱以外の固定的な壁をなくすという考え方もある。その場合は、柱が少し太くなる一方で、将来的に自由度は高くなる側面もある。とにかく安全は第一ですから、総合的に決めていくということになると思う。圧迫感を感じないような設計をして、あまり柱が目立たないよう家具などを組み合わせるなど、いろんな工夫をしていくことが大事だと思う。

【副委員長】 黒板についてですが、上下できるものにしないと、低学年と高学年とは黒板にいざ書こうと思っても書けない。下で書いて上に上げて見せることに対応したつくりとして欲しい。また、九中では特別支援教育の面から、黒板の近くに張り紙をしないなど、子どもたちが落ちつくことができるよう工夫している。黒板の周辺はすっきりした形が望ましいと思う。

【小瀬課長】 教室空間としては2つのパターンがあるのが望ましく、基本的な知識、技能を習得する時には従来の教室のように閉めて、集中して知識、技能を習得する。またオープンスペースは、小グループ等で話し合っただけで学習するときに対応できるようにするのが重要である。

【委員長】 オープンスペースというのは、学習の場所であり、生活の場所であり、家具、子どもたちの作品、教材などが一緒になって、教室があってクラス単位でというより、1つの学年のスペースになっている。例えばクラスを越えて大きなグループで一緒にそこであるときは学習したり、お互いの活

動も学習成果は発表したりスペースとして活用しながら学習する。教室は基本的に机でいっぱい、それに対して、オープンスペースは非常に自由度が高い活動ができる。いろんなテーブルがあって、いろんな話し合いや、作業ができる。そのような場所としてオープンスペースが活かされている学校もある。自由度の高い学習空間をどうつくるか。そのためには、教室より大きなスペースをつくるというのは、1つは多様な活動を支えることになる。また、小さな空間も、クールダウン用に使えるとか、取り出し指導や相談などで多様な活動を支えるスペースになると思う。先生のコーナーがあったり、少人数で集まったり、身近に教材が用意しておるような教材室があったり、流しのコーナーが近くにあって、それがセットになって1つの学年の活動のスペースとして用意されている。教室まわりをいかに豊かにしていくかということになると思う。

【P委員】 先生の空間が教室内に設置されている例がありましたが、これはどんな意味合いがあるのか。先生が教室全体をちゃんと見渡せるのか。

【委員長】 この写真の学校は、私が計画にかかわった学校です。左側の図は、実はこの右側の写真と違う絵ですが、実際教室は全部見渡せるけれど、左側の図だと、少し見えないところができているように見えるかもしれません。ですが、今こういうことが大事だということを受けとめた計画にしておくという考えだと思う。

【P委員】 このような空間があると放課後などに、先生と話をするのが楽しいと子どもたちが先生の前に集まってくるので良いと思う。

【委員長】 先生の執務環境やコミュニケーションをいろんな形でできるスペースとこのをどう用意していくかというのは大事だと思う。休むスペースも先生同士のコミュニケーションの場所になる。それから、よくお聞きするのは、教材を印刷したりつくったりする場所も、学年とかクラスを超えて先生たちが集まってくるので、そこでいろんなコミュニケーションがあり得る。印刷室ではなくて、コミュニケーションスペースだという意識で、印刷室とか、教材をつくるスペースを計画することが大事である。

3 明日また行きたくなる楽しい学校づくりについて

- ・策定支援業者から説明を行った。

<主な意見>

【J委員】 トイレがとてもきれいで良い。洋便器について、低学年とそれから高学年で大きさも違うから、特段の配慮をしてくってほしい。

【策定支援業者】 体格差に配慮してトイレをつくっていきたい。

【委員長】 教室まわりのスペースを、学年の特徴に合わせてつくっていきこうという案となっており、子どもの体位に合わせて考えていく、発達段階に応じた世界、つくり方、デザインをしていくということになると思う。また、学年が上がっていくと、今までとは違う雰囲気スペースになり、進学するということについて気持ちが切りかわるとか、少しは憧れみたいな気持ちがあるのでつくられてもいいのかもしれない。

【G委員】 収納スペースの確保について、子どもたちの数だけ、別に収納スペースも必要になるということですね、人数的なことを考えると。どんなイメージがあるのか。

【策定支援業者】 ランドセル棚とは別に、例えば道具、例えば絵具だけを集めるとか、1人1か所という形にしないほうがコンパクトになるのかなというふうには考えている。オープンスペースに設けるか教室まわりに設けるかは、今後検討していきたい。

【Q委員】 手洗いは、自動水栓となるのか

【策定支援業者】 基本的には、手洗いは自動水栓でいいのではないかと考えている。今後、市と協議していきたいと考えている。

【Q委員】 やはり接触感染とかを考えると、従来の手動方では何か危険ではないか。

【栗原委員】 教育上の観点から考えるとはどうでしょうか。

【P委員】 自動水栓がいい。

【Q委員】 自動水栓の電源は電気ですか。例えば停電になったとき、どうなるのでしょうか。災害で停電になったときは使えないということですか。

【策定支援業者】 停電したときは、もともとのポンプの電源が動かないので、水が上がってこない状況になる。

【委員長】 自動水栓が世の中に出始めたころは、トイレの後にきちんと手を洗う習

慣をつけるという教育的な意味で、自動水栓を設置しないことがあったかと思う。しかし、今は接触感染や節水の観点から、自動水栓が学校でも一般化してきている。

【P委員】 若葉小は、空き教室のロッカーを使っているが、絵具セットとかは集めているところもある。基本的には、各自1つのロッカーがあり、そこに入れて管理をしている。

【G委員】 普通教室前に配置しているオープンスペースを少し狭くして、普通教室を広げる考え方もあると思う。

【委員長】 今の子どもは本当に物持ちです。子どもたちの持ち物、それは寸法をちゃんと調べて、それから種類も、それから整理の仕方を検討していく必要がある。学校の先生方も、先生方と十分そのものに、収納の仕方について協議をして、その納め方を考えるということになると思う。一般的に、収納がちゃんとできている学校は、先生と設計者がいかにコミュニケーションを図って計画したかということ判断する1つのバロメーターになる。

【H委員】 小学校の英語が2020年より3年生から必修化されるので、語学教室もそれに対応したような教室をつくってほしい。

【F委員】 話が戻りますが、災害時、校舎内のトイレは使えないということですか。

【策定支援業者】 ライフラインの状況だと思いますが、水道がとまれば流せない。

【H委員】 屋上にプールを配置するのだから、プールの水は使えるのではないか。

【F委員】 災害時にマンホールトイレが8つと組み立て式の簡易トイレだけでは、足りないと考えている。避難場所は、大体トイレが使えないことによる、生活環境の悪化が問題となる。これだけ良い新校舎をつくるのだから、トイレが停電で動かないのではなく、災害時に1階だけでもトイレが使えるよう検討していただけたらと思う。

【策定支援業者】 技術的には発電機を持ってきて、体育館で照明を確保することなどは可能である。

【Q委員】 1階のトイレの水も上へ一度上げてから流すか。水圧で1階だけ、電気が来なくても1階のトイレは流せるというような、そういう技術はないか。

【委員長】 そういう技術もありますし、やはり災害時対応というのは非常に学校の計画で大きな課題ですから、上下水の問題、それから電気の問題など総合

的に考えて、必要な対応をしていくということが必要だと思う。

【Q委員】 避難者については2階、3階のトイレまで使う要望はない。おそらく1階のトイレが使えるれば、もう十分じゃないかと考えている。

4 前回の検討委員会で出された課題の整理

・策定支援業者から説明を行った。

＜主な意見＞

【策定支援業者】 3階にこの部屋を設けているのは、2、3、4階の中心の3階にこの教室を持ってきた方が良くと考えて配置した。

【K委員】 3階に図工の部屋と準備室とあって、子どもたちの作品をどこに飾るのかなと思っている。授業参観等の際には、廊下に飾ってあるということで目にとまるということもあるので、子どものつくった作品は、図工とか準備室とか、奥まった室ではなく、飾れるようなスペースがあるといい。PTAの部屋みたいなのがないのかなと思って、学校支援ボランティアさんはまた別の部屋に活動すると思うのですが。

【策定支援業者】 図工室の話ですけれども、収納スペースというのが、特別教室側の廊下が広めにとってあるので、展示空間として使えると考えている。PTAの部屋は玄関脇のスペースにしたいと考えている。入口に、大人の目として、PTAがあるような形がいいのではないかと考えている。

【副委員長】 音楽と外国語が隣り合っている。音楽はかなり音が出るし、外国語は聞き取りの授業がある。この配置で大丈夫か。

【策定支援業者】 防音壁など遮音の壁をつくることは可能ですが、連携ということも考えられないのかなということで提案した。ここで子どもたちが歌を歌いながら、外国語の勉強に活用できないか考えた。

【副委員長】 外国語は、音声に関しては、シャットアウトしておかないといけない。その課題が解消できるのならばこの配置でいいと思う。

【P委員】 2年生から6年生までは習熟度別の少人数で算数教室がある。スペース的なものはあると思いますが、新校舎に算数教室を配置するよう、今後検討してほしい。

【栗原委員】 特別教室で、理科とか音楽とかというのは、特化した教室でなければい

けないと思うが、算数の少人数教室は、特別の設えは必要ない考える。フレキシブルに使える部分が生活科室や、ワークスペース、真ん中にある多目的室なども、算数の少人数教室に活用するなど工夫して、少し柔軟に検討をしていただきたい部分もある。

【委員長】 今は絵をもとにして幅広い、色々考えなきゃいけない課題というのを集めているところである。この絵をもとに様々なご意見をいただいたので、それを踏まえてどういうふうに、この形にしていくかというのは、次の設計段階の課題になっていく。

【Q委員】 避難所になった場合、家庭科室で炊き出し用の大釜を使えるような設備にしてほしい。屋外で炊き出しをやらなければいけないということになると、非常に困難が生じると思う。

【策定支援業者】 昇降口まわりは屋根がある広場を設けているので、災害時にはその場所がまず使えると考えている。

【Q委員】 やはり設備のある家庭科室で、出来るのが一番だとは思うが。

【委員長】 今ご指摘いただきました点を整理して、この学校として備えるべき内容はどこか、場合によっては家庭科室を下におろしてしたほうがいいのか、設計の段階に移ったときの検討課題ということでまとめておくのが良い。

また、先ほど策定支援業者から提案のあった、子どもたちが参加できる学校づくりとして、ドングリからの森づくりとか、子どもたちが、実際に新しい施設づくりにいろんな形でかかわれるような工夫については、学校の先生方ともご相談しながら、積極的に考えていこうということによろしいでしょうか。

【M委員】 新校舎に子どもたちの何かが残るとするのがいいと思う。その年になって急にまたみんなで考え始めたら大変なことになるので、そういうことをするのだから、平成30年から32年までの教育課程の中で、それをちゃんと位置づけておくことをしておかないといけないと思う。

5 その他 次回の検討委員会について

- ・第8回新校舎建設マスタープラン検討委員会

日程：平成29年2月16日（木） 午後6時～8時 会場：けやき台小学校